

平成 28 年度

学校案内

I 光の村の教育

- 1 光の村は中学校養護学校卒業生の就職対策から始まった
- 2 卒業生対策の根本は教育である
- 3 光の村の教育
- 4 光の村組織図

II 光の村について

- 1 光の村のめざすもの
- 2 学校紹介
- 3 光の村のあゆみ（光の村の 60 年史・年表）

III 光の村の施設と歴史案内

- 1 光の村園内全体図
- 2 園内施設
- 3 校舎内施設と教育案内

IV 生徒募集要項

V 光の村 写真紹介

学校法人光の村学園

光の村養護学校土佐自然学園

〒781-1154 高知県土佐市新居 2 8 2 9

TEL 088-856-1069

I 光の村の教育

1 光の村は中学校養護学級卒業生の就職対策から始まった

光の村の歴史は、昭和 34 (1959) 年 4 月に始まる。光の村創立者西谷英雄は、勤務していた高知市立旭小
学校の卒業生を中学生になっても引き続き指導するため、旭小学校に城西中養護学級分室を付設した。その中学
生 2 人が卒業することになっても就職できなかつたので、代用高等部を作り、紙箱製造を始めた。この工場が
10 年後に光の村養護学校になる。

1 人は車椅子の男の子で、3 年後には肢体不自由者の職業訓練所へ移ったが、もう 1 人は、60 年経った今も
光の村にいる。結婚し父親になり、自力で家も建てた。すでに古希を迎えたが平成 24 年 6 月まで光の村紙器実
習場断裁工場の主任であったが、その時を境に退職した。

光の村はこのように就職できない中学校卒業生の再教育から始まり、成長する子供の後を追いかけて、学校を
作り、施設を作り、工場を作り、広域福祉圏を形成するに至った。適材適所の人生を拓くためである。

2 卒業生対策の根本は教育である

中学を卒業したこの 2 人には就職先が無かつたが、学校では暮らし方や技能の基礎的な力は一応身につけて
いる。ただその結果が社会の要求水準にとどかなかつただけである。だから私は（一西谷）この 2 人が社会の
関門をくぐりぬけるところまで指導を続けなければならないと考えた。一般の子どもの高校進学はもう義務教
育といってもよい程であるが、知的障害の子供には、中学教育の保障も十分ではなかつた。私はこの代用高等
部を本式の高等部にするつもりであつた。小・中・高とそれぞれの段階でしっかり教育し、それでも駄目なら
なお教育を続ける機関を作る。「教育を、更に教育を、そして教育を」である。この子らの福祉は教育に始まっ
て教育に終わると考えている。（光の村創設者 西谷英雄の文より）

土佐光の村の卒業生対策の歩み概要

施設名	設立時期	施設の特徴
更生施設 「たかぎ寮」	S.46.4 設立 定員 45 名	高等部卒業生の教育機関として作ったが、現在は成人中期の援護施設となり、成人病 や老化防止対策を中心とする療育、生活、作業によって運営されている。 現在 障害者支援施設 たかぎ寮
通勤施設 「ときわ寮」	S.53.12 設立 定員 20 名	高等部卒業生で就職した者が、社会人として自立するための教育機関として作った。 現在、ひかりホームに統合
株式会社 「フクシ」	S.50.4 設立 ダンボール機械 製造業 H.13.11.30 閉鎖	就職先の少ない高知県では、能力は高くても自力でこうした工場を作らなくては、適 材適所という生きる場を得られなかつた。また能力はあっても性格的に就職できない者 もいた。そうした卒業生の教育の場としても必要で、多いときは 60 名の従業員中 13 名が本校の卒業生だった。経済不況のため閉鎖となった。
「光の村 南風堂」	S.58.11 設立 製菓製造販売 H.9.株式会社解散	豊かな時代になって教育が難しくなり、学校を卒業しても引き続いて学校教育の必要 な者が増えている。この工場はそうした伸び悩みの者の学校として作った。本来は授産 施設が適当であるが、そのためには各種の付帯施設、多額の資金が必要となる。そこで 思い切って株式会社とした。しかし運営は困難であつた。 平成 9 年以降は学校の実習工場に切り替え、製造したパン、和洋菓子、せんべい等は 移動販売車で県内各地に販売を続けている。 現在 1 名の卒業生が、実習助手として働いている。

旭 寮	S.32	旭小・城西中の特殊学級分室となる。	
	S.34	中学卒業生の職業訓練機関を併設する。代用高等部・補修科と呼ぶ。	
	S. 38	高知市立養護学校がここでスタートする。 半年後に新校舎に移転する。	
	S. 41	高等部養護学校の設立を目指して、この年からここで知的障害児施設を開設する。名称「光の村学園」	
	S. 44	光の村養護学校がスタートする。ここを高知分室とする。	
	S. 47	第一期卒業生のために通勤寮として活用する。	
	S. 51	昭和61年まで重度化する子供たちの教育実験施設として活用する。	
	S. 58	憐光の村南風堂がスタートしたので、卒業生教育寮として活用する。	
	H. 9	社会福祉法人の生産施設（紙器工場）とする。	
	H. 12.3	閉鎖。土佐市へ移転して更生施設・通勤施設・グループホーム・夫婦寮と分化、発展する。	
教育と生活のための工場	たかぎ寮と連携で作業が進行	※ 割箸工場 堆肥工場 旭寮 折箱工場	竹製割箸を製造する工場 現在、学校割り箸工場として稼働 牛糞を堆肥に利用する。 自閉症児を中心とする福祉工場を目指す。
	利用者の高齢化により作業場を縮小	げんき荘 せんべい工場	しょうがせんべいをはじめ数種類のせんべいを焼く。 重度障害者を中心とする工場として発展させる。これをもとにB型が作業所が開所された
	※印現在稼働中	竹材加工工場	孟宗竹を中心とする加工工場
		石けん工場	食用廃油で石けんを作る。竹炭を利用して油の脱色・脱臭を行い、質の良い石けんを作る。
		竹炭工場	割箸用端材を炭化して、脱臭剤・脱色剤・土地改良剤・植物活性剤等を作る
		ヨーグルト工場	牧場の牛乳を使って良質のヨーグルトを製造し、商品化する
	養鶏場・牧場		現在は鶏のみ
	文旦園		平成15年度より文旦園を作業学習のひとつに加えた。拡げていくことも視野に入れながら現在学校生徒が支える
新しい支援体制の中で	就労支援事業所ひかりの村（日中） ・就労継続支援B型（H、21,4～） ・就労移行支援（H、23,4～）		自立支援法にのっとり支援をおこなう体制に移行
	H25 各施設の名称が変わる ・障害者支援施設 たかぎ寮 ・共同生活援助・介護事業ひかりホーム H26 相談支援事業所みどり開設		学校や各施設ごとに問題解決を進め、保護者と利用者に寄り添った総合的な相談支援を行う

3 光の村の教育—— 「人類の発達史をなぞる足からの教育」 がコアとなる

昭和 50 年代は、知的障害児にとって奈落の時代といってもよい程に、心身の問題を重度化させ、多様

化させた。これは豊かな時代の過保護と依存の悪循環による子供たちの自壊現象である。こうなると、自立する人間に作り変える教育は難しい。光の村養護学校は、こうした時代の申し子たちに対応するために、新しい学校への脱皮を進めてきた。まるで宇宙遊泳をしているような子供たちを地球上へ引き戻す教育を、次の4つの柱で構成する。

1) 暮らしの質を変える(生活教育)

子供の心身のおかしさは、そのほとんどの原因が過保護から出ているので、まず学校を子供たちが自立して暮らす新しい家にする。教師は8時間の勤務体制ながら、24時間365日、子供と共に生きる家族になり、限りなく親に近づく努力をする。だから学校は全寮制とし、生活指導を徹底する。

2) 体の質を変える(体育教育)

どっぷりと依存の砂糖湯につかかってきたような子供は、疲れやすく、疲れの取れにくい体質で、早期の老化を引き起こし、生活習慣病にかかりやすくなっている。したがって運動機能も生理機能も感覚機能も依存型に仕上がっている。筋肉に活力を与え、錆びついた感覚や神経の働きに磨きをかけて、鈍重で不器用でひ弱な依存体質を、敏感で器用でたくましい自立体質に作り変える。行動体力も防衛体力も大きく向上させ、「健康で、力いっぱい働いて、長生きをする」人間に作り変える。このために先ず足の質を変える有酸素運動を段階的に取り上げ、無理なく **42.195 km**へと進め、サイクリングも **150 km**以上、遠泳も2時間以上を目指す。つまり「人類の発達史をなぞる足からの教育」が体作りの基本になる。

3) 手の質を変える(作業教育)

子供たちに手は何に使うかと聞くと、「もらう、食べる、遊ぶ」と答える。依存生活には生産も創造もない。創造と発展が生命の本質ならば、この子供たちはまだ人間になりきれない混沌状態にあるといえよう。私たちはこんな人間を人間になりきらせる手段として、労働が極めて有効であると考えている。もともと人は労働によって人間になった。枯れ枝のような手を、たくましく器用な手に変える学習を徹底し、仕事に習熟し上達することを通じて、脳を活性化し、表情も引き締める。生き方の革命は手の革命でもある。

4) ことばの質を変える(教科教育)

「暮らしと体と手の質」が変われば、もうその子供は全人的に賢く変わっているので、とりたてて頭のことをいう必要はない。植物に根の働きがあって葉の同化作用があるように、人間も労働で吸収した養分を頭の同化作用で「暮らしを支え、創り出す知恵に。働きを支え、創り出す知恵に」作り変える。

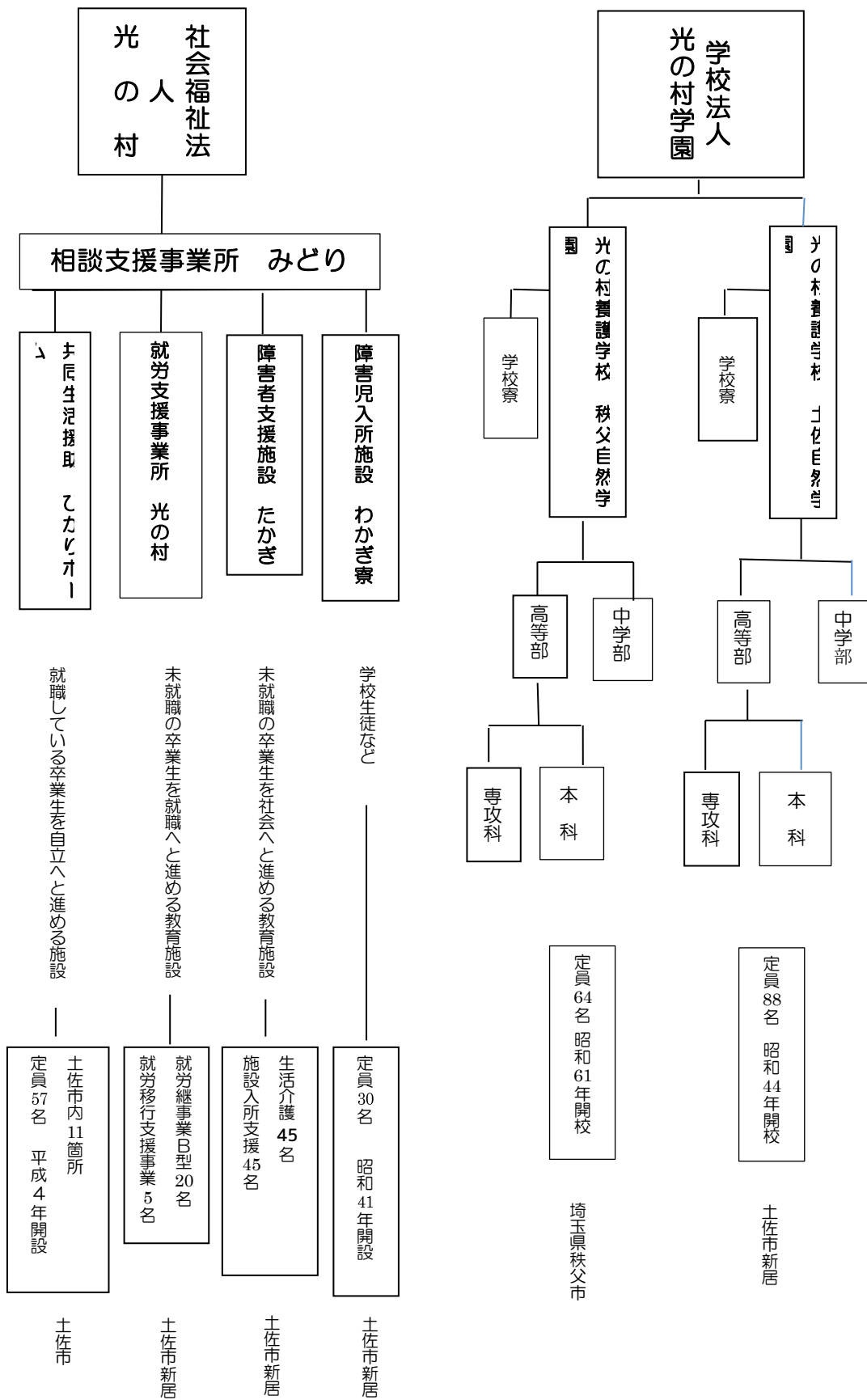
知的障害の賢さは、このように「暮らし、体、手」の質を変えることから生まれる。この三つが確かに訓練されると、読むこと、書くこと、話すこと、計算することなどの学習の可能性も高まる。

人間の生活や労働の正しい仕方は、一つの理屈の上に成り立っているので、習熟し、上達する程にその理屈は自然にわかるようになる。こうして子供たちは次第にことばの質を向上させる。

光の村養護学校は、基礎訓練の段階でも教科に発展する指導を取り上げるが、その後では教科教育も徹底して指導する。

各教科を総合単元、あるいは単独のドリル学習等によって学習内容を構成する。

4 光の村組織図



II 光の村について

1 光の村のめざすもの

(1) 適材適所に生きる人生を開く広域福祉圏を組織し、より確かな生涯教育を作る。

『一人ひとりが適材適所に自活する人生を持つ』日本全国から生徒を迎える広域学校光の村養護学校は、卒業生を追い複数の地域にその土地の特性を生かす施設を作り、総合的に運営する組織作りをしてきた。そして一人ひとりに、より適性に合う仕事を与え助け合って、能力いっぱい自立して生きる人生を開く努力を続けている。縦割り行政の中では様々な不都合が出てくるが、知的障害者が親亡き後も、より確かに自立するためには、この方式が良いと思う。

(2) その現状

※ 社会福祉法人光の村の組織のみ記載（東京・千葉光の村授産学園、神戸光の村は別法人として組織）

学校卒業後の職業指導教育

社会福祉法人 神戸光の村

(日中→生活介護 20名 就労継続事業B型 10名)

(夜間→障害者支援施設 30名 短期入所 5名)

山の学舎

・村作りによる自立への教育

・学校法人光の村学園

光の村養護学校秩父自然学園

(中・高・専)

学校後の職業教育

社会福祉法人 首都圏光の村

千葉光の村授産園 入所・通所

都市の学舎・街に生きる教育と福祉

海の学舎・村に生きる生産施設

・学校法人光の村学園

光の村養護学校土佐自然学園（中・高・専）

・生涯教育施設→障害児入所施設（わかぎ寮）・障害者支援施設（たかぎ寮）

共同生活援助・介護事業ひかりホーム・就労支援事業所 ひかりの村

2 学校紹介

（1）学校法人光の村学園とは

学校法人光の村学園は土佐自然学園と秩父自然学園の2校を持つ私立の養護学校です。全国で私立の支援学校は12法人13校あり、そのうち知的障害児・者学校は8法人9校です。

◎ 私立特別支援教育学校連合会（障害種別数）

知的障害	8法人 9校	視覚障害	1法人 1校
聴覚障害	2法人 2校	肢体不自由	1法人 1校

私立特別支援学校連合会名簿（代表者）

法人名 学校名	所在地（電話番号・FAX番号）	代表者名	障害の種別
学校法人 愛育学園 愛育養護学校	〒106-0047 東京都港区南麻布 5-6-8 TEL03-3473-8319 FAX 03-3473-8300	理事長 澤田 忍 校長 西原 彰宏	知的障害
学校法人 旭出学園 旭出学園 (特別支援学校)	〒178-0063 東京都練馬区東大泉 7-12-16 TEL 10-3922-4134 FAX 03-3923-4009	理事長 徳川 恒孝 校長 岡田 馨	知的障害

学校法人 明和学園 いずみ高等支援学校		〒983-0832 宮城県仙台市宮城野区案養寺 2-1-1 TEL 022-293-7636 FAX 022-293-7632	理事長 遠藤 正敬 校長 伊藤 徳子	知的 障害
学校法人 カナン学園 三愛学舎		〒028-5133 岩手県二戸郡一戸町中山字軽井沢 49-33 TEL 0195-35-2231 FAX 0195-35-2781	理事長 齋藤 芳弘 校長 伊藤 和彦	知的 障害
学校法人 日本聾話学校 日本聾話学校		〒195-0063 東京都町田市野津田町並木 1942 TEL 042-735-2361 FAX 042-734-8292	理事長 上原 行義 校長 鈴木 実	聴覚 障害
学校法人 ねむの木学園 特別支援学校 ねむの木		〒436-0221 静岡県掛川市上垂木あかしや通り 1-1 TEL 0537-26-3900 FAX 0537-26-3910	理事長 本目真理子 校長 本目真理子	肢体 不自由
学校法人 光の村 学園	光の村養護学校 土佐自然学園	〒781-1154 高知県土佐市新居 2829 TEL 088-856-1069 FAX 088-828-6570	理事長 井村 雄三 校長 北野 光子	知的 障害
	光の村養護学校 秩父自然学園	〒369-1901 埼玉県秩父市大滝 4783 TEL 0494-26-5617 FAX 0494-53-1003	理事長 井村 雄三 校長 小峯 淳	知的 障害
学校法人 聖坂学院 聖坂養護学校		〒231-0862 神奈川県横浜市中区山手町 140 TEL 045-622-2074 FAX 045-622-2933	理事長 柴田 昌一 校長 佐野 明紀	知的 障害
学校法人 横浜訓盲学院 横浜訓盲学院		〒231-0847 神奈川県横浜市中区竹之丸 181 番地 TEL 045-641-3939 FAX 045-662-1710	理事長 埴 忠蔵 校長 中澤 恵江	視覚 障害
学校法人特別支援学校 聖母の家学園 特別支援学校 聖母の家学園		〒510-0961 三重県四日市波木町 393-1 TEL 0593-21-4502 FAX 0593-21-4513	理事長 伊藤 春樹 校長 辻 正	知的 障害
学校法人 大出学園 支援学校 若葉高等学園		〒371-0241 群馬郡前橋市苗ヶ島町 2258-4 TEL 027-283-1011 FAX 027-283-1010	理事長 川崎 弘 校長 大出 浩司	知的 障害
学校法人 明晴学園 明晴学園		〒140-0003 東京都品川区八潮 5-2-1 TEL 03-6380-6775 FAX 03-6380-6751	理事長 斉藤 道雄 校長 榎 陽子	聴覚 障害

(2) 光の村養護学校土佐自然学園とは

- 1) 光の村養護学校土佐自然学園は、知的障害児教育における実業高校を目指して昭和 44 年度に開校し、技術教育に重点をおいた。しかし、子どもたちの問題の重度化が目立ちはじめた昭和 50 年代から中学部・高等部（本科・専攻科）の青年全期をカバーする8年制の学校という利点を生かして、重度化に歯止めをかける教育の創造に打ち込んでいる。
- 2) 光の村の教育は確かな社会的自立を目指す
 - ①強く、たくましく、しなやかな体をつくること
 - ②確かに自立する暮らしを身につけること
 - ③良い技術を身につけ、全力を集中して仕事に打ち込み与えられた職務を確実にこなす力を育てることに重点をおき、スモールステップで一人ひとりに迫る丹念な指導を行い、生徒の可能性を最大限に引き出す努力を続けている。
- 3) 全寮制であり、すべての指導を徹底しやすい上に、親と学校が完全に一体となるということが、成果をあげる結果につながっていると考える。
- 4) 本校には「知的障害児童施設 わかぎ寮」と「学校寮」が併設されている。県内生の本校への入学はわかぎ寮への入寮決定が必要である。

わかぎ寮は高知県知事より認可された福祉施設で、高知県内から本校へ入学する者が生活する寄宿舎である。学校・寮が一体となって、よい生活習慣を確立し、よい生活者を育てるための生活学

校を構成している。

このわかぎ寮は、公的な援助を受ける福祉施設で、家庭の負担する費用は少なく支援は手厚く、数多くの職員が、保護と教育にあたっている。高知県内から入学する者は、全員この寮に入る。寮へ入るには、児童相談所で、診断・判定・支援という手続きが必要で、入学希望者の親は、あらかじめ児童相談所へも入寮希望を申し出る必要がある。県外でも籍が空いていれば入寮の可能性が有る。学校寮はわかぎ寮以外の生徒が全員入寮する。

5) 学校時間割 (別紙資料)

6) 寮日課の流れ

5 : 50	起床、寝具・パジャマの始末、排泄
6 : 05	グラウンド集合 体操の後、マラソン開始 (5.2km~3.9km) 生徒の状況を見て距離は決める。新入生については、歩くところから始める。
6 : 50	温冷浴 (水1分、お湯1分、水・湯と交互に入り水8回目で終了) またはまさつ。新入生は、乾布まさつから始める。
7 : 30	朝食 歯磨き
8 : 00	朝掃除 寮生活で使う場所を中心に掃除する。
8 : 30	朝礼 学校日課に移る (中学部は学校日課で入浴指導をうける)
↓	
16 : 00	寮日課に入る 女子・高等部・専攻科入浴 (職場実習中は個別に帰校後)
18 : 00	夕食 歯磨き
19 : 00	治療 学習(日記等)、余暇時間
21 : 00	就寝

7) 家庭学校 (長期休業)

家に帰れば家庭が学校である。両親が先生になるという意味で家庭学校と呼ぶ。

- ① 4月末～5月はじめ 1週間
- ② 8月 4週間
- ③ 年末年始前後 3週間
- ④ 3月末～4月はじめ 3週間

8) 年間の主な行事

主な行事名	説明	期日
強歩大会	完歩目標 10km~50km	5月14日
遠泳大会	完泳目標 50m~3km	7月30日
体育祭		10月2日
卒業旅行	中3 土佐遍路卒業旅行	10月25日~28日
	高3 宮古島トライアスロン旅行	10月16日~22日
サイクリング	室戸サイクリング 100km往復	11月16日~18日
マラソン大会	短縮マラソン大会 10km (中学部は最高 7.5km)	2月5日
	龍馬マラソン大会 (高3 専攻科)	2月19日
	フルマラソン大会 (中学部は 20kmまで、高1,2 は 4	2月25日

	時間以内)	
--	-------	--

9) 合宿

新入生保護者研修

親子合宿 中学部・高等部・専攻科→必要に応じて行う。

夏期特別活動（ミニトライアスロン・登山・ボート川下り・遠泳等）→7月下旬

10) 文化的行事

冬季文化祭 12月23日（主に音楽を中心にした発表会）

春季文化祭 3月18日（劇を主にした発表会）

11) その他の催し

敬老会 12月23日 土佐市新居地区の65歳以上の方々を招いての敬老会
（毎年約50名の方が出席）

地域の学校との交流（地元新居小学校・土佐市立戸波小学校 など）

太鼓演奏 高3宮古島卒業旅行（旅行先→宮古島市役所・支援学校）
室戸サイクリングで訪問（市役所、老人ホーム、学校など）
近隣の学校その他のイベントに年間10箇所

12) 生徒の状況

選考基準及び生徒の状況

全国の養護学校卒業生の平均就職率は、平成時代には10%台に低迷している。（光の村の場合は専攻科2年を経て50～60%）平成の時代になっても向上せず、かえって低落の傾向がある。光の村ではこの状態を生徒の重度化に教育が追いつけなかった結果と考えているので、入学希望者の親で、光の村教育に強く共感し、同志的な立場で光の村教育を共有できる場合は、地域を問わず入学を許可している。従って障害の程度も問わない。要は家庭と親が、いかに学校と教師に近づき一体となり得るかということが選考の第一基準となっている。

① 学年別在籍生徒数

学部 性別	中学部				高等部本科				高等部専攻科			合計
	中1	中2	中3	小計	高1	高2	高3	小計	専1	専2	小計	
男	0	6	2	8	5	6	11	22	1	2	3	33
女	0	0	1	1	0	2	2	4	1	0	1	6
計	0	6	3	9	5	8	13	26	2	2	4	39

② 知的障害の程度

程度 \ 学部	中学部	高等部本科	高等部専攻科	合計
最重度	0	1	1	2
重度	5	13	2	20
中度	2	3	1	6

軽 度	2	9	0	11
計	9	26	4	39

③ 併せ持つ障害・疾病

学部 障害・疾病	中学部	高等部本科	高等部専攻科	合計
自閉症・自閉的傾向	5	11	2	18
情緒障害	0	1	0	1
注意欠陥多動性障害	0	1	0	1
てんかん	2	9	3	14
ダウン症候群	0	3	0	3
硬化症	0	1	0	1
言語障害	0	3	0	3
アレルギー	2	3	0	5
安定剤または眠剤	2	4	1	7
身体障害手帳	1	2	0	3
視覚障害	0	1	0	1
プラダー・ウィリー症候群	1	0	0	1

④ 出身地別生徒数

〈県内〉

郡市名	中学部	高等部 本科	高等部 専攻科	合 計
高知市	1	4	0	5
南国市	1	1	0	2
香美市	0	1	0	1
土佐市	0	1	0	1
合計	2	7	0	9

〈県外〉

都道府県	中学部	高等部 本科	高等部専 攻科	合 計
香川県	1	2	0	3
徳島県	3	2	1	6
愛媛県	0	1	0	1
広島県	0	1	0	1
福岡県	0	1	0	1

兵庫県	1	4	1	6
大阪府	1	4	0	5
京都府	0	1	0	1
滋賀県	0	0	1	1
三重県	0	0	1	1
愛知県	1	0	0	1
東京都	0	2	0	2
群馬県	0	1	0	1
合計	7	19	4	30